

## 第 339 回研究報告会（5 月 27 日）

## モンゴル・シャーマニズムと身心変容

アルタン・ジョラー（おやさと研究所受託研究員）

天（テングリ）を最高の崇拜対象とするモンゴル人のシャーマニズム信仰は、外来宗教と政治政策の影響を受けながら今日も生き残っている。今回の発表では、発表者のフィールド・ワークに基づき、ホルチン地方におけるモンゴル・シャーマン＝ブオの儀礼的实践について紹介した。

ホルチン地方のブオの儀礼は主に供犠儀礼（シュースレホ）、憑依儀礼（ホブシラホ）、悪霊払い（グリム・ガルガホ）や難関儀礼（ダバー・ダバホ）などがある。これらの儀礼の過程で、ブオが自分自身や参加者に顕著な身心変容を引き起こしている。そして、通常と異なる身心状態が、ブオの霊的知識と力の獲得やその伝承と直接結びついて考えられているということが窺える。

アルタン・ジョラー氏は中国・内モンゴル自治区出身の文化人類学者。内モンゴル師範大学で修士号取得後、日本に留学。千葉大学大学院、京都大学大学院博士課程を修了。現在、上智大学グリーンケア研究所に勤務しながら、4 月からはおやさと研究所受託研究員を勤めている。

## マイグレーション研究会で研究発表

尾上 貴行

5 月 8 日、マイグレーション研究会の 5 月例会が、オンライン形式（Zoom）で開かれ、報告者の一人として、尾上が「戦時日系人収容施設における『住』」と題して報告した。

本報告では、太平洋戦争時、アメリカ合衆国連邦政府によってアメリカ各地に設置された日系アメリカ人収容施設での「住」に注目し、政府当局の方針、収容施設における住居と施設、日系人たちの住環境への対応などについての考察を試みた。

政府当局の視点からは、施設の画一性と多様性といった特徴と、物質不足や労働者不足による住居建築の遅延、継続的な住居の修繕・労働力確保といった課題が明らかになった。また当局は、日系人の「アメリカ化」や「民主主義」的な施設運営をめざしたが、その住環境は現実的には「一般的アメリカ人」のものとは程遠いものであったことが明らかになった。

日系人の収容施設での住環境への適応と生存戦略としては、住居の改築、当局への改善交渉、居住・生活空間での「日本文化」の創造などが行われていた。つねに監視下にあり、プライバシーが欠如した、単調な住環境のなかで、日系人たちの積極的・戦略的な対応と絶えまない改善への努力、また「アメリカ化」という方針下での日系人の葛藤や両文化の混雑性などがうかがわれた。「危険な」敵性外国人として日系人が拘留された抑留所では、さまざまな国や地域の日系人たちが生活を共にし、ドイツ人やイタリア人との交流もあった。そのため、抑留所での住環境の体験は多様なものとなったと考えられる。また家族抑留所では、比較的「普通の」住環境が提供されており、家族生活における住居の形態や設備の重要性をあらためて認識することとなった。

## 『グローカル天理』メール配信のご案内

当研究所では、『グローカル天理』を毎月発行し、関係各所やご希望の方々へ配布・配送しておりますが、ペーパーレスでのメール配信を開始しました。

つきましては、『グローカル天理』（PDF 版）のメールでの受け取りを希望される場合、および紙版の『グローカル天理』の配布・配送を中止される場合は、下記の当研究所メールアドレスへご連絡ください。

なお、当誌はおやさと研究所のホームページでも公開しており、そちらをご利用いただくことも可能ですので、併せてご案内いたします。

皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

連絡先：

天理大学附属おやさと研究所

E-mail : [glocal@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:glocal@sta.tenri-u.ac.jp)

URL : <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

グローカル天理

第 22 巻 第 7 号（通巻 259 号）

2021 年（令和 3 年）7 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 永尾教昭

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan